

平成 1 6 年度  
流通サプライチェーン全体最適化促進事業

< 実証実験 >

「ビジネスモジュール環境設定書」

平成 17 年 3 月

日本電気株式会社

改版履歴

日付	版数	改版内容
2005 年 3 月 31 日	初版	新規

実証実験統括責任者  
 日本電気株式会社　： 曾根田　雄一

検　印
<div></div>

## 目次

1. 目的 .....	1 - 1
2. 環境設定ファイル概要 .....	2 - 1
2.1 環境設定ファイル一覧 .....	2 - 1
2.2 配置ディレクトリ .....	2 - 3
3. 各環境設定ファイルの項目一覧 .....	3 - 1
3.1 ビジネスモジュールの設定ファイル .....	3 - 1
3.2 業務 AP アダプタの設定ファイル .....	3 - 4
3.3 通信サーバ用の設定ファイル .....	3 - 6
3.4 ログの設定ファイル .....	3 - 7
3.5 ログメッセージの設定ファイル .....	3 - 8
3.6 プロセスフロー定義、コラボレーション記述、イベント記述、通信プロファイル .....	3 - 13
3.6.2 (1) プロセスフロー定義ファイル .....	3 - 14
3.6.3 (2) コラボレーション記述 .....	3 - 17
3.6.4 (3) イベント記述 .....	3 - 19
3.6.5 (4) 通信プロファイル .....	3 - 22
3.7 XML スキーマ .....	3 - 24
3.8 スタイルシート .....	3 - 25
3.9 業務 AP アダプタマッピング .....	3 - 25
3.10 取引先コードの設定ファイル .....	3 - 25
3.11 C/S 型送信アプリの設定ファイル .....	3 - 25
3.12 C/S 型受信アプリの設定ファイル .....	3 - 27

## 1. 目的

本書では、ビジネスモジュールで使われている環境設定ファイルについて設定内容および記述方法などについて説明する。本書の目的は、ビジネスモジュールの環境を構築する際に、設定する項目に関して設定内容を理解し、環境構築ができるようになることである。

本書では、ビジネスモジュールに関する環境設定ファイルについてだけ記述しており、実際に通信を行なうには、ebXML 通信を行なう通信サーバ (WebLogic Integration, BizEngine など) で使用する環境設定を行なう必要がある。それらについては、ミドルウェアの製品のマニュアルや実証実験のインストールマニュアルなどを参照されたい。

## 2. 環境設定ファイル概要

ビジネスモジュールで使う環境設定ファイルについての概要を説明する。

### 2.1 環境設定ファイル一覧

ビジネスモジュールで使われる定義ファイルの一覧を表 2.1 に示す。これらの設定ファイルはビジネスモジュールの起動時に読み込まれる。

表 2.1 定義ファイル一覧

#	環境設定ファイル	ファイル名(形式)	説明	備考
1	ビジネスモジュールの設定ファイル	bpc.properties (プロパティ)	ビジネスモジュール全体の環境設定を行なうファイルである。	
2	業務 AP アダプタの設定ファイル	bpc.adapter.properties (プロパティ)	ビジネスモジュールと業務を繋ぐ業務 AP アダプタの環境設定を行なうファイルである。	
3	通信サーバ用の設定ファイル	bpc.b2b.properties (プロパティ)	ビジネスモジュールと通信サーバを繋ぐ通信アダプタの環境設定を行なうファイルである。使用する通信サーバ毎に異なる設定となる。	
4	ログの設定ファイル	log4j.xml (XML)	ログ出力のレベルや出力ファイル、出力フォーマットなどをこのファイルに設定する。Jakarta プロジェクトのログ出力機能を利用している。	
6	ログメッセージの設定ファイル	logmessage.properties (プロパティ)	ログの設定ファイルで出力されるメッセージの中身が記述されている。このファイルは編集しないこと。	編集 不要
7	プロセスフロー定義ファイル	processflow.xml (XML)	ビジネスモジュールの基本プロセスフローに対応するイベントとクラスとロールを定義する。	編集 不要
8	コラボレーション記述	*collaboration.xml (XML)	企業(拠点)間の取引を定義したファイルである。企業(拠点)毎に基本プロセスフローのどのパターンを使ってどのメッセージの取引を行うのかを定義する。ファイル名は collaboration.xml で終わるように定義する。	新規作成 が必要

#	環境設定ファイル	ファイル名(形式)	説明	備考
9	イベント記述	*.event.xml (XML)	コラボレーション記述で選択したプロセスで起動されるイベントを定義する。イベントの定義とは、イベントの種類や実装クラスの紐付けの設定を行なう。イベント記述は、コラボレーション記述と対になるように定義する。ファイル名は event.xml で終わるように定義する。	新規作成が必要
10	通信プロファイル	*.xml (XML)	コラボレーション記述で定義されている通信プロファイルと通信サーバに設定される CPA の情報を紐付けるためのものである。CPA ごとに定義する。	新規作成が必要
11	XML スキーマ	*.xsd (XML)	環境設定ファイルの XML スキーマや JEDICOS-XML の XML スキーマを定義している。	編集不要
12	スタイルシート	*.xsl (XML)	ビジネスモジュールが JEDICOS-XML のメッセージと内部形式の XML を変換するために使用するファイルである。	編集不要
13	業務 AP アダプタマッピング	*.csv (CSV)	業務アダプタが JEDICOS-XML と業務データを変換するために使用する。業務アダプタ SDK で自動生成される、CSV 形式のファイルである。	新規作成が必要
14	取引先コードの設定ファイル	bpc_enterprise_code.properties (プロパティ)	取引先コードからコラボレーション ID を決定する際に使用される。	
15	C/S 型送信アプリの設定ファイル	bpc.bizx.sender.properties (プロパティ)	ビジネスモジュールとクライアント型接続のシステムで連携する場合の送信に関する設定をする。	
16	C/S 型受信アプリの設定ファイル	bpc.bizx.receiver.properties (プロパティ)	ビジネスモジュールとクライアント型接続のシステムで連携する場合の受信に関する設定をする。	

(注 1) ファイル名に \* (アスタリスク) が使用されている場合は複数のファイルで定義されることを表している。

(注 2) 備考欄で「編集不要」となっているファイルはビジネスモジュール内部の動作を十分に理解して編集する必要があるため、通常は変更してはいけないものである。

(注 3) 備考欄で「新規作成」となっているファイルはサンプルを参考にして企業毎に作成する必要があるものである。

## 2.2 配置ディレクトリ

ビジネスモジュールのルートディレクトリから見た、環境設定ファイルの配置ディレクトリとそのファイルの一例を表 2.2 に示す。

表 2.2 環境設定ファイルの格納ディレクトリとそのファイル

ディレクトリ・ファイル名	説明	#
config	環境設定ファイルの格納ディレクトリ	-
bpc.bizx.receiver.properties	C/S 型受信アプリの設定ファイル	16
bpc.bizx.sender.properties	C/S 型送信アプリの設定ファイル	15
bpc.properties	ビジネスモジュールの設定ファイル	1
bpc_adapter.properties	業務 AP アダプタの設定ファイル	2
bpc_b2b.properties	通信サーバ用の設定ファイル	3
bpc_enterprise_code.properties	取引先コードの設定ファイル	14
log4j.xml	ログの設定ファイル	5
logmessage.properties	ログメッセージの設定ファイル	6
processflow.xml	プロセスフロー定義 XML ファイル	7
desc	コラボレーション記述とイベント記述の格納ディレクトリ	-
selftest-collaboration.xml	テスト用コラボレーション記述 XML ファイル	8
selftest-event.xml	テスト用イベント記述 XML ファイル	9
tp	通信プロファイル格納ディレクトリ	-
self_comm-self_comm.xml	テスト用通信プロファイル	10
xsd	XML スキーマの格納ディレクトリ	-
bpc-collaboration.xsd	コラボレーション記述の XML スキーマ	11
bpc-event.xsd	イベント記述の XML スキーマ	11
bpc-process.xsd	プロセス定義 XML の XML スキーマ	11
Desadv_konpou_20040223a.xsd	JEDICOS-XML の XML スキーマ	11
Invoice_20040223a.xsd	同上	11
MessageInfo_V102.xsd	同上	11
Orders_20031218a.xsd	同上	11
Recadv_konpou_20040223a.xsd	同上	11
RemittanceAdvice_20040223a.xsd	同上	11
Type_V102.xsd	同上	11
xsl	スタイルシートの格納ディレクトリ	-

ディレクトリ・ファイル名	説明	#
bpc2jxml.xsl	BpcDocument ->JEDICOS-XML 変換スタイルシート	12
jxml2bpc.xsl	JEDICOS-XML->BpcDocument 変換スタイルシート	12
profile	業務 AP アダプタ関連の格納ディレクトリ	-
config	業務 AP アダプタのマッピングファイルの格納ディレクトリ	-
Invoice.csv	マッピングファイル	13

(注 1) この表の # の欄は、表 2 . 2 の # の欄の番号に対応する。

(注 2) BpcDocument とはビジネスモジュールで使用する内部のデータ形式である



### 3. 各環境設定ファイルの項目一覧

#### 3.1 ビジネスモジュールの設定ファイル

ビジネスモジュール全体の環境設定を行なう設定ファイルであり、プロパティ形式（プロパティ=値）で記述する。新規にプロパティを追加することはできない。表 3.1 に示すプロパティを設定する。

表 3.1 ビジネスモジュールの設定ファイルの設定内容一覧

#	プロパティ名	説明	備考
1	bpc.system.log_config_file	Log4jの設定ファイルの格納先	\$BPC_HOME/config/log4j.xml
2	bpc.system.log_message_file	ログメッセージのファイル名	値は、logmessage。変更不可。
3	bpc.system.datasource	DBのデータソース名	値は、BPCDataSource。変更不可。
4	bpc.system.db_local_debug	テスト用で使用しない。デバック用	値は、false。変更不可。
5	bpc.communication.bpc_sender_adapter_class_name	ビジネスモジュールの送信アダプタクラス名	値は、jp.go.meti.dscm.communication.adapter.bpc.BpcSenderAdapterImpl。変更不可。
6	bpc.communication.bpc_receiver_adapter_class_name	ビジネスモジュールの受信アダプタクラス名	値は、jp.go.meti.dscm.communication.adapter.bpc.BpcReceiverAdapterImpl。変更不可。
7	bpc.communication.communication_listener_class_name	ビジネスモジュールの通信リスナークラス名	値は、jp.go.meti.dscm.event.CommunicationListenerImpl。変更不可。
8	bpc.communication.transport_profile_dir	コミュニケーションプロファイルの格納先	\$BPC_HOME/config/tp
9	bpc.communication.xml_schema_location	JEDICOS-XML の XML スキーマの格納先	file:/// \$BPC_HOME/bpc/config/xsd
10	bpc.communication.xml_stylesheet_dir	スタイルシートの格納先	\$BPC_HOME/config/xsl
11	bpc.communication.marshaller.debug	JavaオブジェクトからXMLへの変換時のデバック出力	値は、false。変更不可。
12	bpc.communication.unmarshaller.debug	XMLからJavaオブジェクトへの変換時のデバック出力	値は、false。変更不可。
13	bpc.communication.new_collaboration_id	コラボレーションIDの決定方法	値は、true。変更不可。
14	bpc.event.context_factory	コンテキストファクトリのクラス名	値は、jp.go.meti.dscm.constraint.ContextFactoryImpl。変更不可。
15	bpc.event.dbutil	DBユーティリティのクラス名	値は、jp.go.meti.dscm.event.DbUtilForWebLogicJdbcImpl。変更不可。
16	bpc.constraint.self_party_name	自拠点パーティID	自拠点のパーティIDを設定する。
17	bpc.constraint.role_check	ロールチェックの有効無効	値は、true。変更不可。
18	bpc.constraint.process_flow_file	プロセスフローXMLファイルの格納先	\$BPC_HOME/config/processflow

#	プロパティ名	説明	備考
			.xml
19	bpc.constraint.collaboration_desc_path	コラボレーション記述XMLファイルの格納先	\$BPC_HOME/config/desc
20	bpc.constraint.collaboration_desc_filefilter	コラボレーション記述XMLファイルを判断するためのファイル名のフィルタ条件。ファイル名に後方一致で判定する。	値は、collaboration.xml。変更不可。
21	bpc.constraint.event_desc_path	イベント記述XMLファイルの格納先	\$BPC_HOME/config/desc
22	bpc.constraint.event_desc_filefilter	イベント記述XMLファイルを判断するためのファイル名のフィルタ条件。ファイル名に後方一致で判定する。	値は、event.xml。変更不可。
23	bpc.constraint.event_timeout_sec	イベントのタイムアウト秒	値は、180。変更不可。
24	bpc.constraint.event_retry_max_count	イベントリトライの上限値	値は、5。変更不可。
25	bpc.constraint.xml_schema_location	上述のXMLファイルに対応するXMLスキーマファイルの格納先	file:/// \$BPC_HOME/bpc/config/xsd
29	bpc.scheduler.interval	この間隔をおいてイベントのスケジュールを行う。ミリ秒	初期値は、2000。
30	bpc.scheduler.retry_interval	リトライ可能なイベントはこの間隔をおいてリトライを行う。ミリ秒	初期値は、60000。
31	bpc.scheduler.retry_max_count	リトライの回数の上限	初期値は、5。
32	bpc.scheduler.jndi.initial_context_factory	JNDIサービスプロバイダーのファクトリークラス名	値は、weblogic.jndi.WLInitialContextFactory。変更不可。
33	bpc.scheduler.jndi.provider_urls	JNDIのプロバイダURL	初期値は t3://localhost:7001 7001以外のポートを使用している場合は、7001の部分を変更する。
34	bpc.scheduler.jndi.security_principals	WebLogicのJNDIへアクセスする際に使用するユーザ名	初期値は、system。
35	bpc.scheduler.jndi.security_credentials	WebLogicのJNDIへアクセスする際に使用するパスワード	上記ユーザに対するパスワードを設定する。
36	bpc.scheduler.event_executer.jndi_name	ビジネスモジュールがイベントを実行のEJB名	値は、EventExecuterBean。変更不可。
37	bpc.scheduler.event_executer.max_execute_count	上記EJBの最大同時実行数	値は、1。変更不可。
38	bpc.scheduler.event_executer.invalid_count	EJB呼出失敗後に該当サーバのEJB呼出をパスする判定回数	値は、20。変更不可。
39	bpc.db.url	データベースへの接続URL	初期値は localhost:1521:BPCDB。 DBサーバのホスト名(またはIPアドレス)、Oracleリスナーのリスンポート、OracleのSIDに合わせて変更する。
40	bpc.db.username	オラクルのログインユーザ	初期値は、BPC。
41	bpc.db.password	オラクルのログインパスワード	上記ユーザに対するパスワードを設定する。
42	bpc.db.driver_class_name	JDBCドライバ名	値は、oracle.jdbc.driver.OracleDriver。

#	プロパティ名	説明	備考
			変更不可。

(注1) \$BPC\_HOME はビジネスモジュールのホームディレクトリを表す。

(注2) ファイルシステムへのパスを設定する項目については、この表ではUNIXのパス形式で記述してある。

Windows のプラットフォームでは、( / ) の部分を ( ¥ ¥ ) で読替えること。

### 3.2 業務 AP アダプタの設定ファイル

業務アプリケーションから受け取った取引データを読み込むディレクトリと業務アプリケーションに渡す取引データを保存するディレクトリ等を設定する。

表 3.2 業務 AP アダプタの設定ファイル設定内容一覧

#	プロパティ名	説明	備考
1	bpc.adapter.config_dir	フィールド定義ファイルのディレクトリ	ファイルシステム上の任意の場所を設定する。
2	bpc.adapter.order_load_dir	発注予定通知メッセージの読み込場所	同上。
3	bpc.adapter.order_response_load_dir	受注回答通知メッセージの読み込場所	同上
4	bpc.adapter.shipping_instruction_load_dir	出荷指示通知メッセージの読み込場所	同上
5	bpc.adapter.shipping_notice_load_dir	出荷確定通知メッセージの読み込場所	同上
6	bpc.adapter.arrival_notice_load_dir	入荷予定通知メッセージの読み込場所	同上
7	bpc.adapter.receipt_advice_load_dir	入荷確定通知メッセージの読み込場所	同上
8	bpc.adapter.account_receivables_load_dir	仕入送信通知メッセージの読み込場所	同上
9	bpc.adapter.account_payables_load_dir	売上送信通知メッセージの読み込場所	同上
10	bpc.adapter.remittance_advice_load_dir	支払案内通知メッセージの読み込場所	同上
11	bpc.adapter.invoice_load_dir	請求通知メッセージの読み込場所	同上
12	bpc.adapter.free_format_load_dir	自由記述メッセージの読み込場所	同上
13	bpc.adapter.order_save_dir	発注予定通知メッセージの保存場所	同上
14	bpc.adapter.order_response_save_dir	受注回答通知メッセージの保存場所	同上
15	bpc.adapter.shipping_instruction_save_dir	出荷指示通知メッセージの保存場所	同上
16	bpc.adapter.shipping_notice_save_dir	出荷確定通知メッセージの保存場所	同上
17	bpc.adapter.arrival_notice_save_dir	入荷予定通知メッセージの保存場所	同上
18	bpc.adapter.receipt_advice_save_dir	入荷確定通知メッセージの保存場所	同上
19	bpc.adapter.account_receivables_save_dir	仕入送信通知メッセージの保存場所	同上

#	プロパティ名	説明	備考
20	bpc.adapter.account_payables_save_dir	売上送信通知メッセージの保存場所	同上
21	bpc.adapter.remittance_advice_save_dir	支払案内通知メッセージの保存場所	同上
22	bpc.adapter.invoice_save_dir	請求通知メッセージの保存場所	同上
23	bpc.adapter.free_format_save_dir	自由記述メッセージの保存場所	同上
24	bpc.adapter.xml_schema_location	JEDICOS-XML スキーマのディレクトリ	\$BPC_HOME/config/xsd
25	bpc.adapter.xml_stylesheet_dir	スタイルシートのディレクトリ	\$BPC_HOME/config/xsl
26	bpc.adapter.fixdata_filename_suffix	固定長データファイルのサフィックス	値は、.dat。変更不可。
27	bpc.adapter.csvdata_filename_suffix	CSV データファイルのサフィックス	値は、.csv。変更不可。
28	bpc.adapter.lock_filename_suffix	ロックファイルのサフィックス	値は、.lock。変更不可。
29	bpc.adapter.complete_filename_suffix	処理済データファイルのサフィックス	値は、.end。変更不可。
30	bpc.adapter.datafile_encoding	業務データファイルの文字コードセット	値は、Windows-31J。変更不可。

(注1) \$BPC\_HOME はビジネスモジュールのホームディレクトリを表す。

(注2) ファイルシステムへのパスを設定する項目については、この表では UNIX のパス形式で記述してある。

Windows のプラットフォームでは、( / ) の部分を ( ¥ ¥ ) で読替えること。

(注3) ファイルシステム上の任意の場所を設定する際に、Windows のプラットフォームでは、パスの区切りに、ファイルのセパレータ ( ¥ ) を重ねた ( ¥ ¥ ) を使用する。UNIX の場合は、ファイルのセパレータ ( / ) を重ねて記述する必要はない。

### 3.3 通信サーバ用の設定ファイル

ビジネスモジュールと通信サーバを繋ぐ為の設定を行う。

表 3.3 通信サーバ用の設定ファイル設定内容一覧

#	プロパティ名	説明	備考
1	bpc.communication.ebxml_sender_class_name	通信サーバ送信アダプタクラス名	通信サーバが、BizEngine の場合、 jp.go.meti.dscm.communication.adapter.b2b.bizengine.local.EbxmlSenderBizImpl 通信サーバが WLI の場合、 jp.go.meti.dscm.communication.adapter.b2b.wli.EbxmlSenderWliImpl。変更不可。
2	bpc.communication.ebxml_receiver_classes_name	通信サーバ受信アダプタクラス名	値は、 jp.go.meti.dscm.communication.adapter.b2b.bizengine.local.EbxmlReceiverImpl。変更不可。
3	bpc.system.jndi.initial_context_factory	JNDIサービスプロバイダーのファクトリークラス名	値は、 weblogic.jndi.WLInitialContextFactory。変更不可。
4	bpc.system.jndi.provider_url	JNDIのプロバイダURL	初期値は t3://localhost:7001 7001以外のポートを使用している場合は、7001の部分を変更する。

### 3.4 ログの設定ファイル

ビジネスモジュールは、ログ出力に Jakarta プロジェクトの Log4j(ログ出力機能)を利用している。設定の詳細は Log4J のドキュメントを参照されたい。

本書では、ログファイルの出力先を変更する場合の修正箇所の説明にとどめる。

name 属性が”File”の param 要素の value 属性の内容を変更することにより、出力先を変更することができる。該当箇所をピックアップすると以下のような設定となっている。

```
<param name="File" value="c:¥¥bpc¥¥log¥¥BPC${log.filename.extension}.log" />
<param name="File" value="c:¥¥bpc¥¥log¥¥bpc-error${log.filename.extension}.log" />
<param name="File" value="c:¥¥bpc¥¥log¥¥trace${log.filename.extension}.log" />
```

ファイルのパスを設定する際に、Windows のプラットフォームでは、パスの区切りに、ファイルのセパレータ(¥)を重ねた(¥¥)を使用する。UNIX の場合は、ファイルのセパレータ(/)を重ねて記述する必要はない。

### 3.5 ログメッセージの設定ファイル

ビジネスモジュールで使用しているログメッセージが設定されている。

プロパティ形式のフォーマットとなっており、メッセージ ID = メッセージ内容の形式で記述している。Shift\_JIS で記述されたソースファイルから、Javaのコマンドである native2ascii で Unicode に変換したファイルである。内容の編集を行ってはいけない。

表 3.4 ログメッセージの内容

#	メッセージID	メッセージ内容
1	BM-0001-F	[×]プロパティ({0})が指定されていません。
2	BM-0002-F	[×]プロパティ({0})の形式が正しくありません。
3	BM-0003-F	[×]プロパティ({0})が範囲を超えています。
4	BM-0004-F	[×]プロパティ({0})が範囲を超えています。
5	BM-0005-F	[×]ローカルホストのIPアドレスが取得できませんでした。
6	BM-0006-E	[×]予想外の実行時例外({0})が発生しました。
7	XX-0007-T	[   ]{0}
8	XX-0008-D	[   ]{0}
9	XX-0009-I	[   ]{0}
10	XX-0010-W	[×]{0}
11	XX-0011-E	[×]{0}
12	XX-0012-F	[×]{0}
13	BM-0013-F	[×]BPCの初期化に失敗しました。
14	BM-0100-E	[×]データベースのコネクションのクローズに失敗しました。{0}
15	BM-0101-E	[×]コネクションプールのクローズに失敗しました。{0}
16	BM-0200-E	[×]Homeオブジェクトの取得に失敗しました。{0}
17	BM-1001-E	[×]コミュニケーションリスナーで異常が発生しました。{0}
18	BM-1002-E	[×]レジストリのインスタンスの取得に失敗しました。{0}
19	BM-1003-E	[×]Java オブジェクトから J-XML への変換に失敗しました。{0}
20	BM-1004-E	[×]J-XML から Java オブジェクトへの変換に失敗しました。{0}
21	BM-1005-E	[×]XML変換に失敗しました。{0}
22	BM-1006-E	[×]通信プロファイルの設定で異常が発生しました。{0}
23	BM-1007-E	[×]Javaオブジェクト内のデータフォーマットが正しくありません。{0}
24	BM-1008-E	[×]バリデーションで異常が発生しました。{0}
25	BM-1009-E	[×]受信アダプタで異常が発生しました。{0}
26	BM-1010-E	[×]送信アダプタで異常が発生しました。{0}
27	BM-1011-I	[×]コンテキスト情報の作成に失敗しました。{0}
28	TS-1012-I	[ J-XML メッセージを受信完了しました。【CTX={0}】
29	TS-1013-I	[ J-XML メッセージを送信開始します。【CTX={0}】
30	BM-1014-W	[×]この J-XML メッセージはスキーマの定義にあっていません。{0}
31	TS-1015-W	[×]エラーが通知されました。メッセージを確認してください。{0}
32	BM-1016-D	[ J-XML メッセージを送信する準備ができました。【CTX={0}】
33	BM-1017-D	[   ]トレース情報を生成しました。【CTX={0},トレース情報ID={1}】
34	TS-1018-D	[ J-XML メッセージを送信完了しました。【CTX={0}】



35	BM-1019-D	[ ] J-XML メッセージから Java オブジェクトを生成しました。【CTX={0}】
36	BM-1020-D	[ ] J-XML メッセージを受信開始します。
37	BM-1021-E	[ × ] トレース情報のデコードに失敗しました。【CTX={0}】
38	BM-1022-E	[ × ] トレース情報の保存に失敗しました。【CTX={0},TRC={1}】
39	BM-1023-D	[ ] 送信メッセージは J-XML のスキーマに適合しています。【CTX={0}】
40	BM-1024-E	[ × ] 送信メッセージは J-XML のスキーマに適合していません。【行番号={0},列番号={1},エラー要因={2}】
41	BM-1025-E	[ × ] BizXコンテキスト情報の登録に失敗しました。
42	BM-1026-D	[   ] BizXコンテキスト情報を登録しました。【CTX={4},CLB={3},伝票番号={1},伝票明細番号={2},発注日={0}】
43	BM-1027-D	[   ] 既存のBizXコンテキスト情報が見つかりました。【CTX={4},CLB={3},伝票番号={1},伝票明細番号={2},発注日={0}】
44	BM-1028-D	[   ] BizXコンテキスト情報を更新しました。【CTX={4},CLB={3},伝票番号={1},伝票明細番号={2},発注日={0}】
45	BM-1029-I	[ ] BizX送信メッセージを登録しました。 【CTX={4},CLB={3},ToPartyId={0},Action={1},Uniquum={2}】
46	BM-1030-D	[   ] コンテキストIDがBizX使用済みコンテキストIDのキャッシュ上に見つかりました。 【CTX={0}】
47	BM-1031-D	[   ] コンテキストIDがBizX使用済みコンテキストIDに見つかりました。【CTX={0}】
48	BM-1032-D	[   ] BizX使用済みコンテキストIDに登録し、メッセージのコンテキストIDとします。 【CTX={0}】
49	BM-1033-D	[   ] ebXMLヘッダ情報を作成しました。【CTX={0},メッセージ={1}】
50	BM-1034-I	[   ] コンテキストがBizXコンテキスト情報に存在しません。【伝票番号={1},伝票明細番号={2},発注日={0}】
51	BM-1035-D	[   ] BizXコンテキスト情報の検索を行います。【伝票番号={1},伝票明細番号={2},発注日={0}】
52	BM-2001-E	[ × ] イベントの登録に失敗しました。{0}
53	BM-2002-E	[ × ] データベースのコミットに失敗しました。{0}
54	BM-2003-E	[ × ] データベースのロールバックに失敗しました。{0}
55	BM-2004-E	[ × ] イベントハンドラで異常が発生しました。{0}
56	BM-2005-E	[ × ] データベースの既存のメッセージの取得に失敗しました。{0}
57	BM-2006-E	[ × ] コネクションプールの取得に失敗しました。{0}
58	BM-2007-E	[ × ] イベントリスナーで異常が発生しました。{0}
59	BM-2008-E	[ × ] 永続化で異常が発生しました。{0}
60	BM-2009-E	[ × ] 永続化されたイベントの更新に失敗しました。{0}
61	BM-2010-E	[ × ] イベントリスナーが見つかりません。{0}
62	BM-2014-D	[   ] イベントが開始しました。{0}
63	BM-2015-D	[   ] イベントが終了しました。{0}
64	BM-2016-E	[ × ] スケジュール指定({0})が正しくありません。
65	SS-2017-I	[ ] イベントスケジューラがイベント({1})を指定時刻({2})にスケジュールしました。 【CTX={0}】
66	BM-2018-D	[   ] イベントを保存しています。【CTX={1},CLB={0},イベントID={2}】
67	SS-2019-I	[ ] イベントスケジューラが起動しました。
68	SS-2020-D	[ ] 実行待ちイベントが見つかりました。【イベントID={0}】
69	SS-2021-E	[ × ] イベントの検索・更新に失敗しました。【原因={0}】
70	SS-2022-W	[ ] 実行タイムアウトイベントを検索しました。{0}件見つかりました。【イベントID={1}】
71	SS-2023-W	[ ] 開始タイムアウトイベントを検索しました。{0}件見つかりました。【イベントID={1}】
72	SS-2024-W	[ ] 完了したイベント({0})は起動できません。【イベントID={1}】
73	SS-2025-I	[ ] イベントスケジューラを強制終了します。
74	SS-2026-I	[ ] イベントスケジューラを終了します。

75	SS-2027-W	[ ] イベントがリトライオーバーになりました。【イベントID={0}】
76	SS-2028-I	[ ] イベントスケジューラサービスが無効となっています。
77	SS-2029-W	[ ] 前回終了時に実行状態のまま終了したイベントがあります。【イベントID={0}】
78	SS-2030-D	[ ] 実行に失敗したイベントの状態を更新します。【イベントID={0}】
79	SS-2031-D	[ ] 例外が発生したイベントの状態を更新します。【イベントID={0}】
80	SS-2032-E	[ × ] イベントの実行に失敗しました。【原因={0}】
81	SS-2033-E	[ × ] サービスの再接続に失敗しました。
82	SS-2034-I	[ ] イベントスケジューラサービスに再接続しました。
83	BM-3001-F	[ × ] 初期設定ファイル({0})の読み込みに失敗しました。
89	BM-3007-E	[ × ] コラボレーションID({1})が存在しません。【CTX={0}】
90	BM-3008-E	[ × ] そのコラボレーションにはリクエストされたイベント({1})が定義されていません。【CTX={0}】
91	BM-3009-E	[ × ] イベント定義のプロセス({2})と、実行されたプロセス({3})が異なります。【CTX={0}, イベント={1}】
92	BM-3010-E	[ × ] イベント({1})において、プロセス定義のロール名({2})と、このパーティの({3})ロールが異なります。【CTX={0}】
93	BM-3011-E	[ × ] メッセージのタイプ({2})が異なります。【CTX={0}, イベント={1}】
94	BM-3012-E	[ × ] 日時フォーマット({0})が正しくありません。
95	BM-3013-W	[ × ] コラボレーション記述({0})が見つかりません。
96	BM-3014-W	[ × ] コラボレーション記述({0})の有効期間外です。
97	BM-3015-W	[ × ] ID({0})が重複しています。
98	BM-3016-I	[   ] プロセス({2})を開始します。【CTX={0}, CLB={1}】
99	BM-3017-I	[   ] プロセス({2})を終了します。【CTX={0}, CLB={1}】
100	BM-3018-E	[ × ] リクエストされたプロセスフロー({1})のパターンが定義されていません。【CTX={0}】
101	BM-4001-E	[ × ] 次のイベント({2})が見つかりませんでした。【CTX={0}, イベント={1}】
102	BM-4002-E	[ × ] クラス({2})のインスタンス化に失敗しました。【CTX={0}, イベント={1}】
103	BM-4003-E	[ × ] ({2})への通信に失敗しました。{4}【CTX={0}, イベント={1}, アクション={3}】
104	BM-4004-E	[ × ] プロセスの実行時にランタイム例外が発生しました。{3}【CTX={0}, イベント={1}, 例外={2}】
105	BM-4005-E	[ × ] XMLParser(SAXParser)のコンフィグレーションで例外が発生しました。{0}
106	BM-4006-I	[ × ] コンテキストが見つかりません。【CTX={0}】
107	BM-4007-W	[ × ] メッセージが正しくありません。【CTX={0}, 原因={1}】
108	BM-4008-E	[ × ] EJBのインターフェースの作成に失敗しました。【CTX={0}, イベント={1}, EJB=イベント管理サブテーブル操作】
109	BM-4009-E	[ × ] イベント管理サブテーブルの更新に失敗しました。【CTX={0}, イベント={1}】
110	BM-4010-E	[ × ] EJBのインターフェースの作成に失敗しました。【CTX={0}, イベント={1}, EJB=BPCメッセージ送信】
111	BM-4011-E	[ × ] イベント管理テーブルの挿入に失敗しました。【CTX={0}, イベント={1}】
112	BM-4012-E	[ × ] イベント管理テーブルの更新に失敗しました。【CTX={0}, イベント={1}】
113	BM-4013-W	[ × ] イベントのキャンセルを行いました。【CTX={0}, イベント={1}】
114	BM-4014-E	[ × ] <cron-pattern>タグの設定({2})が違っています。【CLB={0}, イベント={1}】
115	BM-4015-E	[ × ] トレース情報のエンコードに失敗しました。【CTX={0}, イベント={1}, トレース情報ID={2}】
116	BM-4016-E	[ × ] トレース情報の保存に失敗しました。【CTX={0}, イベント={1}, トレース情報ID={2}】
117	BM-4017-E	[ × ] イベントに対する通知リスナー({2})が見つかりません。【CTX={0}, イベント={1}】
118	AP-5001-E	[ × ] 初期化ファイル({0})の読み込みに失敗しました。【原因={1}】
119	AP-5002-D	[ × ] 業務データの日付型のデータが正しくありません。【行数={0}, 桁数={1}, データ={2}】
120	AP-5003-D	[ × ] 業務データ({0})の値が範囲外です。【データ={1}】
121	AP-5004-D	[ × ] 業務データが正しくありません。【行数={0}, 桁数={1}, 受け取ったデータ={2}】
122	AP-5005-E	[ × ] 業務APのフィールド定義が正しくありません。【フィールド定義ファイル名={0}, 原因={1}】
123	AP-5006-E	[ × ] 業務APからBMへデータを渡す処理に失敗しました。【CTX={0}, プロセス名={1}】

124	AP-5007-E	[×]BMから業務APへデータを渡す処理に失敗しました。【CTX={0},プロセス名={1},原因={2}】
125	AP-5008-D	[ ]フィールド定義を読み込んでいます。【フィールド名={0},漢字名={1},型={2},桁数={3},先頭からの位置={4},小数点={5}】
126	AP-5009-D	[ ]業務データを処理しています。{0}
127	AP-5010-D	[ ]業務データからメッセージを生成しました。
128	AP-5011-D	[ ]コラボレーションIDが設定されました。【CLB={0}】
129	AP-5012-D	[ ]コンテキストIDを設定しました。【CTX={0}】
130	AP-5013-D	[ ]コンテキストIDを新規に作成しました。【CTX={0}】
131	AP-5014-D	[ ]トレース情報を生成しました。【CTX={1},CLB={0},トレース情報ID={2}】
132	BM-5015-I	[ ]イベントを作成しました。【CTX={1},CLB={0},結果コード={2},原因={3}】
133	AP-5016-D	[ ]コンテキスト情報をデータベースに登録しました。【CTX={4},CLB={3},発注日={0},伝票番号={1},伝票明細番号={2}】
134	AP-5017-D	[ ]受信メッセージから業務データを生成しました。【CTX={1},CLB={0}】
135	AP-5018-D	[ ]業務データを受信しました。
136	AP-5019-D	[ ]既存のコンテキスト情報が見つかりました。【CTX={4},CLB={3},発注日={0},伝票番号={1},伝票明細番号={2}】
137	AP-5020-I	[ ]業務APアダプタの受信処理を完了しました。【CTX={1},CLB={0},結果コード={2},原因={3}】
138	AP-5021-E	[×]業務APからサポートされていないメッセージの種別が指定されました。【メッセージ種別={0}】
139	AP-5022-I	[ ]業務APアダプタが送信処理を完了しました。【結果コード={0},原因={1}】
140	AP-5023-D	[ ]トレース情報を登録しました。【CTX={1},トレース情報ID={0},プロセス名={2},ロール名={3},イベント名={4}】
141	AP-5024-D	[ ]使用済みコンテキスト情報をデータベースに登録しました。【CTX={0},イベント名={1}】
142	AP-5025-D	[ ]トレース情報を追加しました。【CTX={1},CLB={0},トレース情報ID={2}】
143	AP-5026-D	[×]受信したメッセージにフィールド定義で定義されたXPathが存在しません。【XPath={0}】
144	BM-6001-D	[ ]受信したメッセージはJ-XMLのスキーマに適合しています。【CTX={0}】
145	BM-6002-D	[ ]プロセスの実施整合性が確認されました。【CTX={1},CLB={0}】
146	BM-6003-D	[×]受信したメッセージはJ-XMLのスキーマの定義にありません。【行番号={0},列番号={1},原因={2}】
147	BM-6004-D	[ ]BMの初期化に成功しました。
148	BM-6005-I	[ ]BMが正常に起動しました。
149	BM-6006-E	[×]指定の設定ファイルが見つかりませんでした。【ファイル名={0}】
150	BM-6007-E	[×]設定ファイルのバリデーションチェックに失敗しました。【ファイル名={0},行={1},列={2},内容={3}】
151	AP-6008-I	[ ]業務APアダプタが送信処理を開始します。
152	AP-6009-I	[ ]業務APアダプタが受信処理を開始します。
153	BM-6010-E	[×]伝票番号({0})から発注日を取得する処理中にエラーが発生しました。
154	BM-6011-W	[ ]伝票番号({0})は複数登録されています。最新の({1})を利用します。
155	BZ-7001-I	[ ]受信ディレクトリにファイルはありません。【ディレクトリ名={0}】
156	BZ-7002-I	[ ]受信ファイルの処理を開始します。【ファイル名={0}】
157	BZ-7003-I	[ ]受信ファイルの処理が完了しました。【ファイル名={0}】
158	BZ-7004-D	[ ]受信済ファイルに登録しました。【ファイル名={0}】
159	BZ-7005-W	[ ]受信済ファイルは既に存在しています。【ファイル名={0}】
160	BZ-7006-E	[×]受信ファイルのファイル名が不正です。【ファイル名={0}】
161	BZ-7007-I	[ ]受信ファイルを受信履歴ディレクトリに移動しました。【ファイル名={0}】
162	BZ-7008-I	[ ]受信ファイルを受信履歴ディレクトリに移動できなかったため、受信ディレクトリから削除しました。【ファイル名={0}】
163	BZ-7009-I	[ ]BMサーバのBizX受信アダプタを呼び出します。【ファイル名={0}】

164	BZ-7010-E	[ × ]BMサーバのBizX受信アダプタの呼び出しに失敗しました。【内容={0}】
165	BZ-7011-E	[ × ]BMサーバのBizX受信アダプタでエラーが発生しました。【ファイル名={0}、内容={1}】
166	BZ-7012-I	[ ]BMサーバの受信アダプタが正常に処理しました。【ファイル名={0}】
167	BZ-7013-I	[ ]送信メッセージはありません。
168	BZ-7014-I	[ ]メッセージの送信処理を開始します。
169	BZ-7015-I	[ ]メッセージの送信処理が完了しました。【ファイル名={0}】
170	BZ-7016-E	[ × ]送信メッセージが不正です。【ファイル名={0}、内容={1}】
171	BZ-7017-D	[ ]送信メッセージを削除しました。【ファイル名={0}】
172	BZ-7018-I	[ ]送信メッセージをTMPディレクトリに出力しました。【ファイル名={0}】
173	BZ-7019-I	[ ]送信メッセージをTMPディレクトリから送信ディレクトリに移動しました。【ファイル名={0}】
174	BZ-7020-D	[   ]ebXMLメッセージヘッダ情報を作成しました。【ファイル名={0}】
175	BZ-7021-E	[ × ]データベースエラーが発生しました。【内容={0}】
176	BZ-7022-E	[ × ]ファイルI/Oでエラーが発生しました。【ファイル名={0}、内容={1}】
177	BZ-7023-I	[   ]現在の処理をコミットしました。
178	BZ-7024-I	[   ]現在の処理をロールバックしました。
179	BZ-7025-I	[ ]受信アプリが起動しました。【チェック間隔={0}】
180	BZ-7026-I	[ ]送信アプリが起動しました。【チェック間隔={0}】
181	BZ-7027-E	[ × ]受信アプリが異常終了しました。
182	BZ-7028-E	[ × ]送信アプリが異常終了しました。
183	BZ-7029-I	[   ]送信メッセージを J-XML に変換しました。【ファイル名={0}】

### 3.6 プロセスフロー定義、コラボレーション記述、イベント記述、通信プロファイル

プロセスフロー定義、コラボレーション記述、イベント記述、通信プロファイルは、ビジネスモジュールを使用してメッセージ交換を行う場合に使用されるファイルで、プロセスフロー定義を除き、新規に作成する必要がある。

#### (1) プロセスフロー定義

ビジネスモジュールが提供する。修正の必要は無い。各パーティで使用する。

#### (2) コラボレーション記述

パーティ間でどのような業務連携を行なうかを定義し、作成したファイルは各パーティで使用する。

#### (3) イベント記述

各パーティで固有なイベント設定を行なう。

#### (4) 通信プロファイル

2 者間での通信パラメタを定義する。これは ebXML の CPA へのマッピングに使用される。2 者間で使用する。

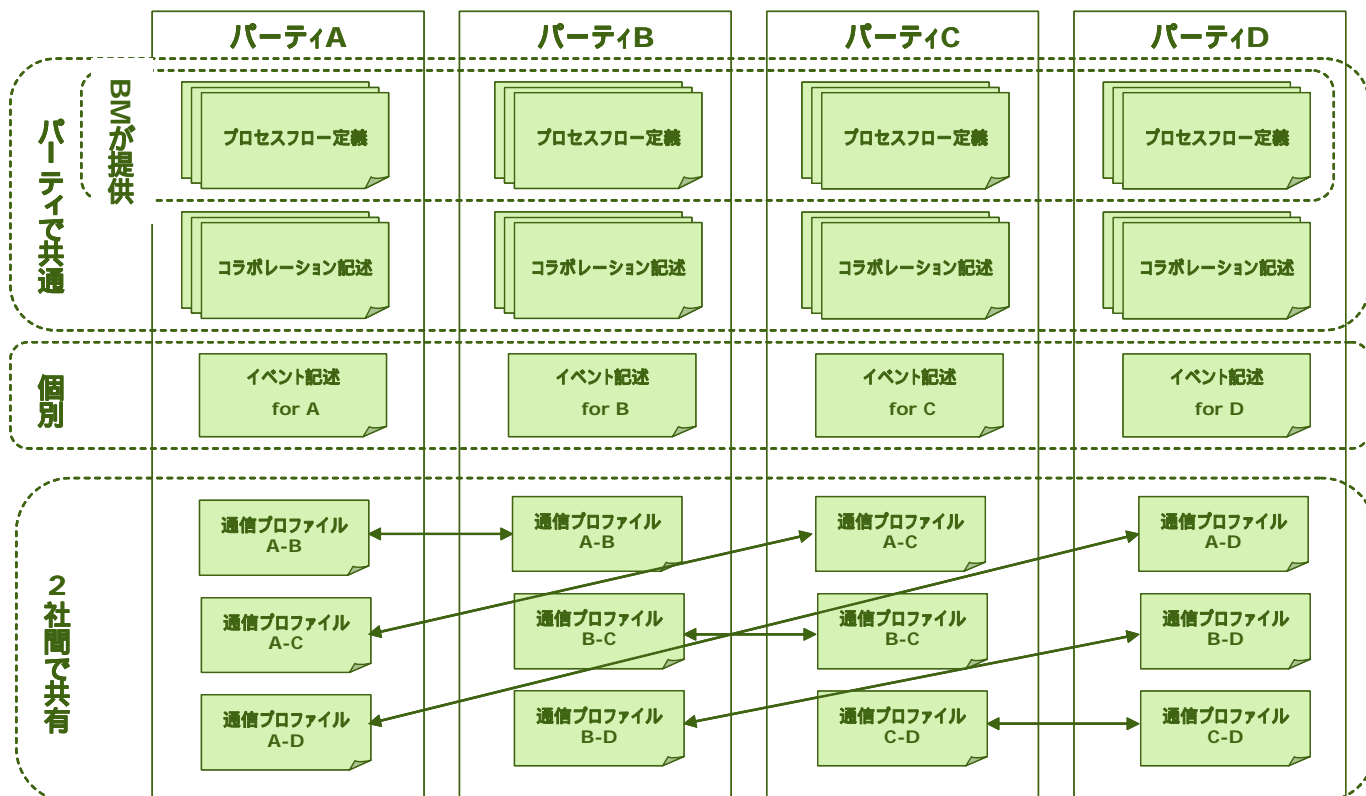


図 3.5 参加企業間での各定義ファイルの配置

以下、各コンフィグレーションファイルについて記述する。

### 3.6.2 (1) プロセスフロー定義ファイル

ビジネスモジュールが提供するプロセスフロー（プロセスのフロー）を定義したファイルである。このファイルは、新しいプロセスが定義された際に更新する必要がある。このファイルは、通常、標準モデルに基づいて作成され、ビジネスモジュールと併せて提供されるため、ビジネスモジュールの利用企業が修正する必要はない。

プロセスフロー定義ファイルの XML 論理構造は次のようになる。

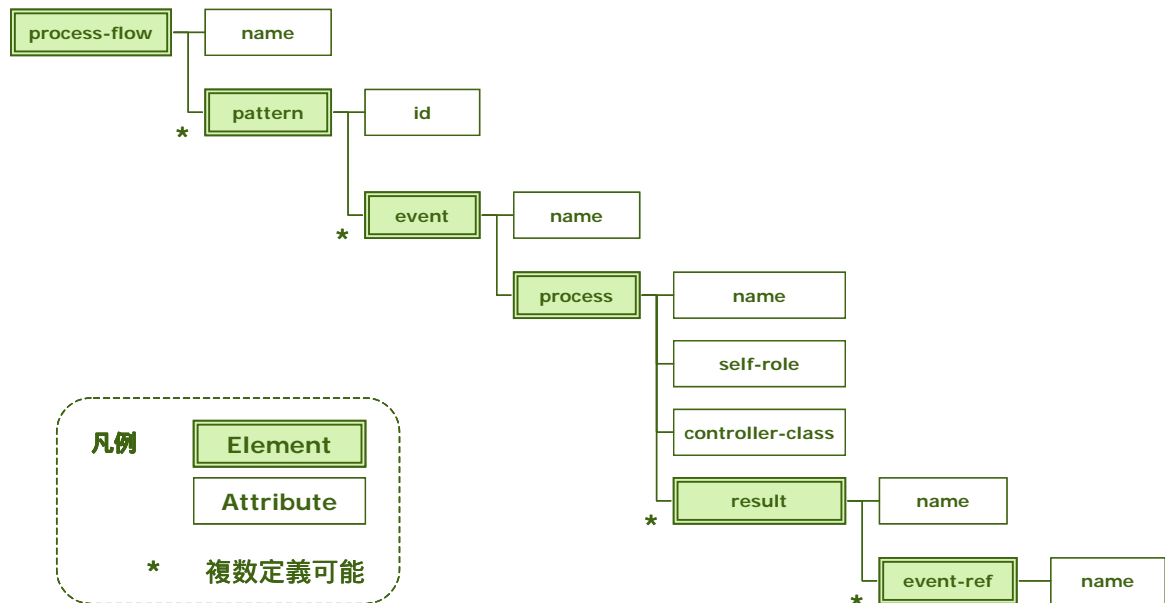


図 3.6 プロセスフロー定義ファイルのXML論理構造

表 3.7 プロセスフロー定義ファイルの設定内容一覧

#	タグ	型	内容	備考
1	process-flow	(0..*)	プロセスフロー定義。	企業が設定するのではなく、標準モデルの内容を元に記述されるものである
2	@name	String	プロセスフローの名称。 collaboration.xml の /process-flow/@name から参照される。	モデルでは以下が定義されている order preshipping shipping postshipping prereceiving receiving postreceiving settlement payment simplesend
3	pattern	(0..*)	当該プロセスフローのバリエーションの一つとして、パターンを定義する部分	
4	@id	String	パターンの ID。 collaboration.xml のパターン選択である、 /process-flow/@pattern-id が参照する値である。	
5	event	(1..n)	パターン中に存在するイベントを列挙する部分である	
6	@name	String	イベント名。一つのBpc全体の中で一意でなければならない。	BPC が提供するイベントのみ指定可能である。
7	process	(1..n)	プロセス名とクラスを関連付ける部分。	
8	@name	String	このプロセスの名称。任意の文字列。	

9	@self-role	String	このプロセスを処理するアクタのロール名。 collaboration.xml の assign タグから参照される。	“seller”(受注者) “buyer”(発注者) “sender”(出荷拠点) “receiver”(出荷拠点) のいずれか。重複は不可。
10	@controller-class	String	このプロセスの処理を実装したクラス名をフルパッケージで記述する。	bpc.event.EventListener インターフェースを実装しているクラスであること。
11	result	(1..n)	このプロセスの処理が終了した後の動作を定義する部分	
12	@name	String	プロセスの返す、終了時ステータスの名前。	“success”：成功のとき 以上のみ設定可能
13	event-ref	(1..1)	終了ステータスに応じて実行するイベントを定義する部分	
14	@name	String	イベントの名前 (この表の#5)。	

タグのカラムで先頭に@が付いている項目は、属性を表している



### 3.6.3 (2) コラボレーション記述

パーティの通信条件の定義、パーティとロールを関連付けるアサインの定義、実行するプロセスフローの 패턴の設定を行なう。各コラボレーションへの参加企業は、自身が登場するコラボレーションを定義しているコラボレーション記述を共有しなければならない。

ファイル名の接尾辞は collaboration.xml にする必要がある。

コラボレーション記述の XML 論理構造は次のようになる。

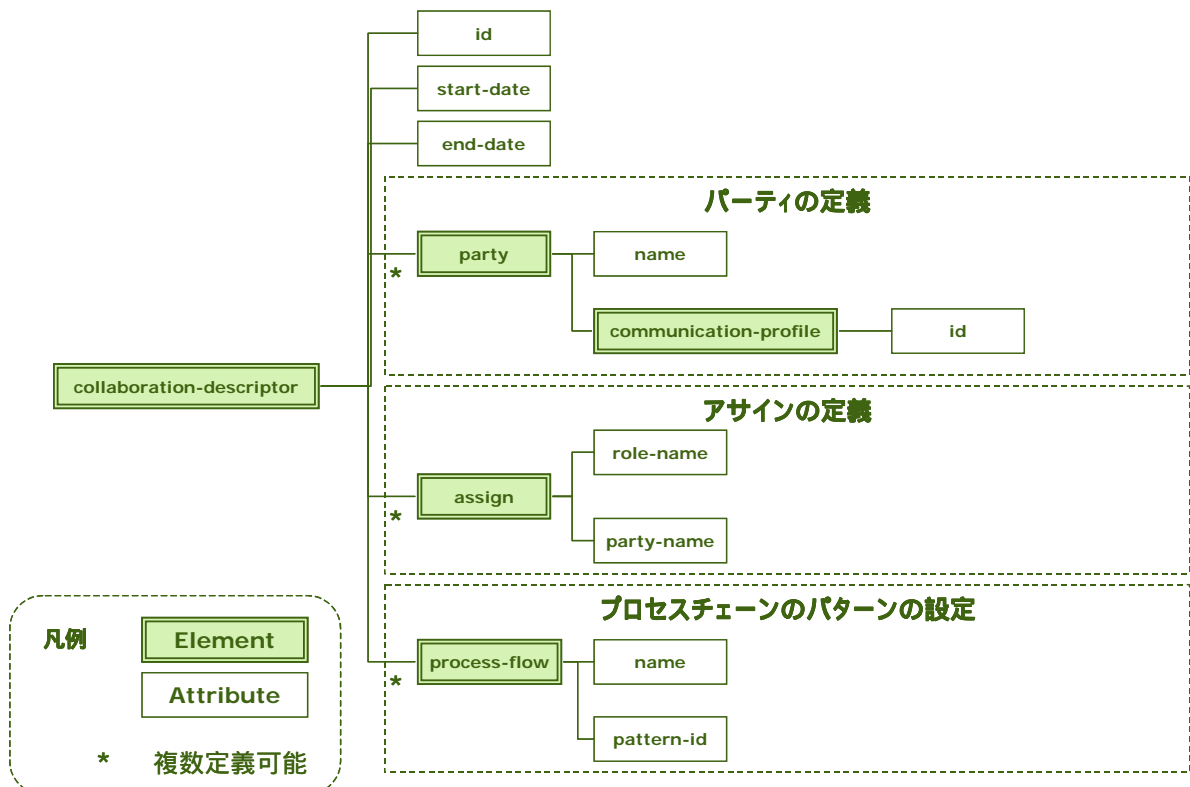


図 3.8 コラボレーション記述の XML 論理構造

表 3.9 コラボレーション記述の設定内容一覧

#	タグ	型	内容	備考
1	collaboration-descriptor	(0..*)	個々のコラボレーションを定義する部分。	
2	@id	String	コラボレーションの ID。全世界の BPC に登録される全てのコラボレーションで一意でなければならない。	推奨命名規則： 小売業 ID+”-”+取引先 ID+”-”+オプション文字列

3	@start-date	Date	コラボレーションの適用開始日時。現在時刻がこれよりも前である場合は、このコラボレーションは利用できない。	例) 2004-05-01T10:00:00
4	@end-date	Date	コラボレーションの適用終了日時。現在時刻がこれよりも後である場合は、このコラボレーションは利用できない。	同上
5	@description	String	説明用のコメント。	オプション
6	party	(1..4)	このコラボレーションに登場する拠点(企業)と、その拠点に対する送信のための通信プロファイル ID の関連付けを定義する部分。	
7	@name	String	拠点の名称。このコラボレーションの /assign の @party-name に指定された名前 でなければならない。	推奨: 英数字および一部の記号からなる、空白を含まない文字列
8	communication-profile	(1)	拠点に対する送信に必要な通信条件を定義する部分	
9	@id	String	通信レイヤに渡される、送信先の識別子。 通信アダプタは、この ID を元に、送信に必要な情報(相手の URL など)を決定できなければならない。	推奨: 英数字および一部の記号からなる、空白を含まない文字列
10	@descriptor	String	説明用のコメント	オプション
11	assign	(1..4)	このコラボレーションに登場する「拠点」とその役割を定義する部分	
12	@role-name	String	SCM モデルで定義された役割名を記述する。 下記のいずれか。 “seller”(受注者) “buyer”(発注者) “sender”(出荷拠点) “receiver”(出荷拠点)	一つのコラボレーションに、それぞれ最大一つだけ指定できる。
13	@party-name	String	この役割をもつ拠点の ID を指定する。	推奨 : その拠点の GLN または企業コード + 事業所コードなど
14	@description	String	説明用のコメント	オプション
15	process-flow	(1..*)	このコラボレーションでの各プロセスフローを定義する部分。	
16	@name	String	プロセスフローの名前。 processflow.xml で定義されていること。	
17	@pattern-id	String	processflow.xml で定義されているパターンの ID。ただし、@name のプロセスフロー内で定義されていること。	参考: パターン ID “0”は、すべてのプロセスフローにおいて、「処理がない」ことを表すように定義されている。
18	@description	String	説明用のコメント	オプション項目

タグの列で先頭に@が付いている項目は、属性を表している

### 3.6.4 (3) イベント記述

コラボレーション記述で定義された個々のコラボレーションについて、参加者間で異なる設定を行う部分（スケジュール時刻などの）を切り出して定義するための設定ファイルである。

このファイルはパーティ間で共有する必要はない。

ファイル名の接尾辞は event.xml にする必要がある。

イベント記述の XML 論理構造は次のようになる。

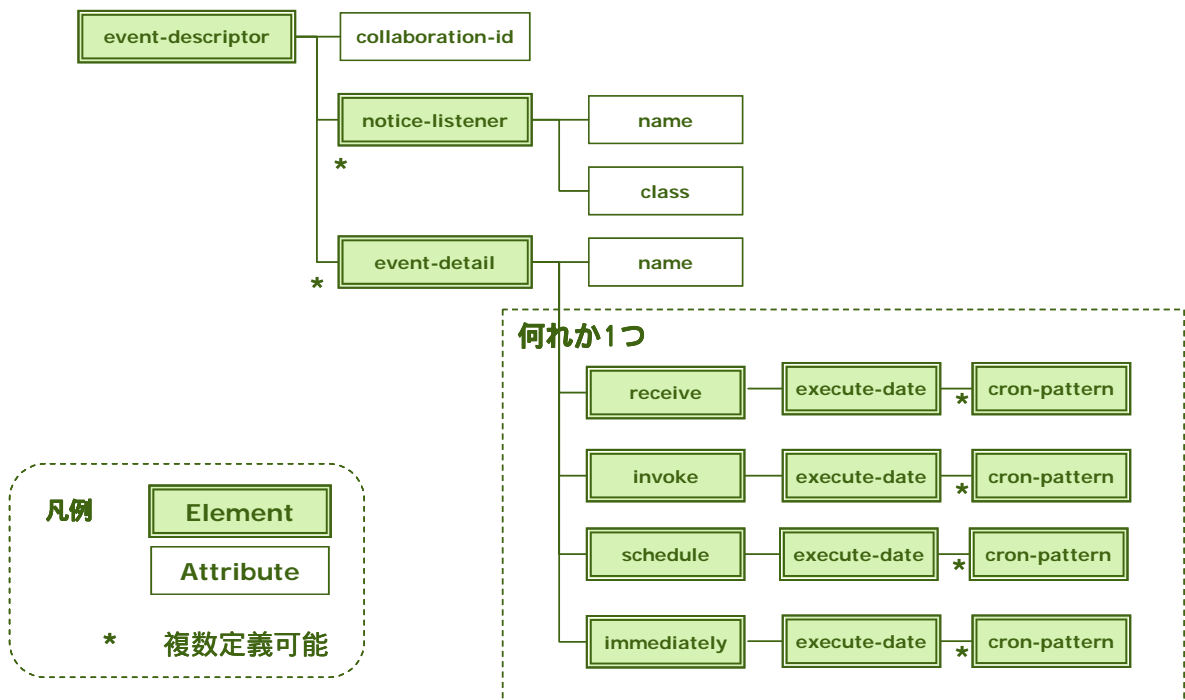


図 3.10 イベント記述のXML論理構造

表 3.11 イベント記述の設定内容一覧

#	タグ	型	内容	備考
1	event-descriptor	(0..*)	個々のコラボレーション定義に対する、イベント定義を行う部分。	
2	@collaboration-id	String	対応するコラボレーション ID を記述する。 collaboration.xml の /collaboration-descriptor/@id を参照する。	
3	notice-listener	(..*)	このコラボレーション中で、BPC から業務 AP に情報を通知する際に用いるアダプタを指定する	

			部分。	
4	@name	String	業務 AP アダプタを呼び出す際の名前を定義する。プロセスを実装したクラスの中から、この名称を元にリスナクラスを呼び出すために用いる。	
5	@class	String	通知に用いるアダプタクラス(個別に開発される)名称を、フルパッケージ名で記述する。 アダプタクラスは、 jp.go.meti.dispatch.api.NoticeListener インタフェースを実装していること	
6	event-detail	(..*)	各イベントについての詳細を定義する部分。	
7	@name	String	対応するイベントの名称を指定する。 processflow.xml の /pattern/event/@name を参照する。	
8	receive	(1..1)	このイベントが Receive(受信)イベントであることを表す。Receive イベントは、外部のメッセージを受信した際に呼び出され、次のイベント(基本的に業務 AP に通知するためのイベントとなる)を登録するだけのイベントである。	#8 ~ #10 は排他的に指定しなければならない。 Receive で始まるイベントは Receive イベントである。
9	invoke	(1..1)	このイベントが Invoke(起動)イベントであることを表す。Invoke イベントは、業務 AP からメッセージを受信した際に起動されるイベントである。	#8 ~ #11 は排他的に指定しなければならない Accept で始まるイベントは Invoke イベントである。
10	immediately	(1..1)	このイベントが Immediately(即時)イベントであることを表す。Immediately イベントは、前のイベントの実行が終わったあとすぐに実行されるイベントである。	#8 ~ #11 は排他的に指定しなければならない Send、Notice で始まるイベントは、Immediately イベントまたは Schedule イベントである。
11	schedule	(1..1)	このイベントが Schedule(予定)イベントであることを表す。Schedule イベントは、#12 ~ #13 で指定された時刻に実行されるイベントである。	#8 ~ #11 は排他的に指定しなければならない Send、Notice で始まるイベントは、Immediately イベントまたは Schedule イベントである。
12	execute-date	(1..1)	イベントの実行条件(cron-pattern)を付与する際に必要になるタグ。	
13	cron-pattern	String	イベントを開始またはチェックする時間を、UNIX の crontab 形式で指定する。 1	例) * 00 13 * * * 毎日 13:00 時

タグのカラムで先頭に@が付いている項目は、属性を表している

1 イベントに応じて扱われる意味がことなる。次の表を参照すること。

表 3.1 2 cron-pattern の設定によるイベントの扱い

イベント名	cron-patternの設定について
Receiveイベント	設定省略可。設定時は、設定値をもとに現在から一番近い未来の日時を算出し、起動開始予定時刻として扱われ、開始タイムアウトの判定に使用される。 省略時は、起動開始予定時刻には、システムで扱える最大の日時が設定される。 任意のタイミングでイベントが実行され、その実行時刻で起動開始予定時刻が更新される。
Invokeイベント	Receiveイベントと同じ。
Scheduleイベント	設定値をもとに現在から一番近い未来の日時を算出し、起動開始予定時刻として扱われ、その日時にイベントが実行される。
ImmediatelyScheduleEvent	Receiveイベントと同じ。ReceiveイベントがInvokeイベントの次に直ちに実行されるので、その時刻で起動開始予定時刻が更新される。

<cron-pattern>の書式：秒 分 時 日 月 曜日 となる。

表 3.1 3 <cron-pattern>の書式

項目	内容
秒	0～59 で指定。*(ワイルドカード) が使用可(1 秒毎)。
分	0～59 で指定。*(ワイルドカード) が使用可(1 分毎)。
時	0～23 で指定。*(ワイルドカード) も使用可(1 時間毎)。
日	1～31,L で指定。*(ワイルドカード) も使用可(毎日)。 L は月末。
月	1～12 で指定。*(ワイルドカード) も使用可(毎月)。
曜日	1～7 で指定。*(ワイルドカード) も使用可(毎日)。 1 が日曜日で 7 が土曜日。

各項目の AND を取った値を使用する。

### 3.6.5 (4) 通信プロファイル

通信サーバと連携するために必要なパラメタを管理する。ebXML の CPA へのマッピングに使用される。2 つの拠点間の情報である。

ファイル命名規約は以下となる。

コラボレーション記述 XML の<communication-profile>要素の id 属性の値(以降、通信プロファイル ID と呼ぶ)のうち二つの id 名の組み合わせについて 1 ファイルを作成する。

二つの通信プロファイル ID をの辞書順にならべたものを”-“(ハイフン)でつなげる。

例) 拠点 A、B の通信プロファイル ID がそれぞれ partyA\_comm、partyB\_comm の場合、コミュニケーションプロファイル名は、partyA\_comm-partyB\_comm.xml となる。

通信プロファイルの XML 論理構造は次のようになる。

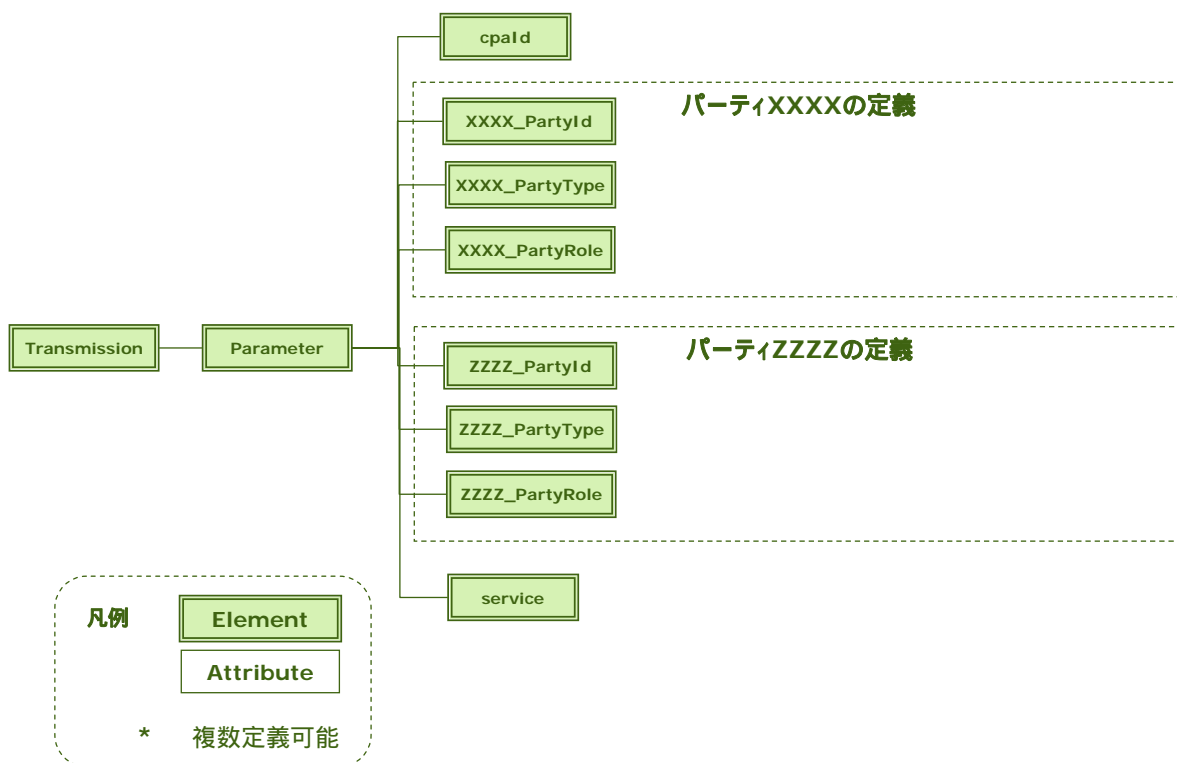


図 3.1 4 通信プロファイルのXML論理構造

表 3.15 通信プロファイルの設定内容一覧

#	タグ	型	内容	備考
1	cpald	String	XXXXとZZZZの2拠点間のebXMLのCPAのcpaldを記述する。	CPAID は、今回は XXXX_ZZZZ_CPA という命名基準に従うものとする。
2	XXXX_PartyId	String	拠点 XXXX に対する ebXML の CPA の partyId を記述する。	XXXX は、event.xml の /bpc-collaboration/collaboration-descriptor/party/communication-profile/@id で指定された値とする。
3	XXXX_PartyType	String	拠点 XXXX に対する ebXML の CPA の partyType を記述する。	今回の実験では、以下を設定 text
4	XXXX_Role	String	拠点 XXXX に対する ebXML の CPA の partyRole を記述する。	今回の実験では、以下のみ設定可能。 “Buyer” “Seller”
5	ZZZZ_PartyId	String	拠点 ZZZZ に対する ebXML の CPA の partyId を記述する。	ZZZZ は、event.xml の /bpc-collaboration/collaboration-descriptor/party/communication-profile/@id で指定された値とする。
6	ZZZZ_PartyType	String	拠点 ZZZZ に対する ebXML の CPA の partyType を記述する。	今回の実験では、以下を設定 text
7	ZZZZ_Role	String	拠点 ZZZZ に対する ebXML の CPA の partyRole を記述する。	今回の実験では、以下のみ設定可能。 “Buyer” “Seller”
8	service	String	XXXXとZZZZの2拠点間のebXMLのCPAのserviceを記述する。	今回実験の設定では、“JEDICOS-XML”を設定する

例) 拠点 A、B で、それぞれ通信プロファイル ID が、partyA\_comm, partyB\_comm の場合、コミュニケーションプロファイル名は、partyA\_comm-partyB\_comm.xml となる。

ファイル名：partyA\_comm-partyB\_comm.xml

```

<Transmission>
<Parameter>
<Vender>NEC</Vender>
<ProductName>BizEngine</ProductName>
<cpald>4500000000001-4588888888881-cpa</cpald>
<partyA_comm_PartyId>4500000000001</partyA_comm_PartyId>
<partyA_comm_PartyType>text</partyA_comm_PartyType>
<partyA_comm_Role>Buyer</partyA_comm_Role>
<partyB_comm_PartyId>4588888888881</partyB_comm_PartyId>
<partyB_comm_PartyType>text</partyB_comm_PartyType>
<partyB_comm_Role>Seller</partyB_comm_Role>
<service>JEDICOS-XML</service>
<action>Purchase Order Response</action>
</Parameter>
</Transmission>

```

### 3.7 XML スキーマ

企業（拠点）間のメッセージ交換に使用されるメッセージ自身の JEDICOS-XML のスキーマとビジネスモジュールのプロセスフローの設定で使用するプロセスフロー定義ファイル、コラボレーション記述、イベント記述のスキーマがある。これらのファイルの修正は必要ない。JEDICOS-XML のスキーマは、メッセージの送受信時にスキーマバリデーションに使用される。プロセスフローに関係するスキーマは、ビジネスモジュール起動時に実行されるスキーマバリデーションで使用する。

表 3.16 ビジネスモジュールで使用する XML スキーマ一覧

スキーマ名	ファイル名
JEDICOS-XML 発注	Orders_20031218a.xsd
JEDICOS-XML 入荷予定梱包	Desadv_konpou_20040223a.xsd
JEDICOS-XML 検品受領	Recadv_konpou_20040223a.xsd
JEDICOS-XML 請求	Invoice_20040223a.xsd
JEDICOS-XML 支払案内	RemittanceAdvice_20040223a.xsd
JEDICOS-XML 商品マスタ	Master_20031218d.xsd
JEDICOS-XMLPOS 売上	SalesDataReport_20031218a.xsd
JEDICOS-XML 特売企画	SalesPromotionPlan_20031218a.xsd
JEDICOS-XML メッセージ情報	MessageInfo_V102.xsd
JEDICOS-XML 共通	Type_V102.xsd
コラボレーション記述	bpc-collaboration.xsd
イベント記述	bpc-event.xsd
プロセスフロー定義	bpc-process.xsd



### 3.8 スタイルシート

ビジネスモジュールが内部で使用するデータ形式と JEDICOS-XML の相互の変換を行う、XSLT(XSL Transformations)で使用されるスタイルシートである。

表 3.17 ビジネスモジュールで使用するスタイルシート一覧

スタイルシート名	説明
bpc2jxml.xsl	JEDICOS-XML 送信時に実行される、内部形式から JEDICOS-XML への変換を行う。
jxml2bpc.xsl	JEDICOS-XML 受信時に実行される、JEDICOS-XML からへ内部形式の変換を行う。

### 3.9 業務 AP アダプタマッピング

業務アダプタフレームワークの Microsoft Excel2002 で作成されたマッピングツールで作成されるフィールド定義ファイルのことである。フィールド定義ファイルは、業務データと JEDICOS-XML のマッピングに関する情報を保持するファイルである。変更してはならない。

#### 3.10 取引先コードの設定ファイル

コラボレーション ID を決定する際の KEY となる情報と取引先コードの紐付けを行う。

プロパティ形式のフォーマットとなっており、取引先コード = コラボレーション ID の決定 KEY の形式で記述している。コラボレーション ID の決定 KEY は、企業（拠点）を表すユニークな ID である必要がある。

#### 3.11 C/S 型送信アプリの設定ファイル

ビジネスモジュールとクライアント型接続のシステムで連携する場合の送信に関する設定をする。

表 3.18 C/S 型送信アプリの設定ファイルの設定内容一覧

#	プロパティ名	説明	備考
1	bpc.bizx.log_config_file	Log4jの設定ファイルの格納先	\$BPC_HOME/config/log4j.xml

#	プロパティ名	説明	備考
2	bpc.bizx.out_dir	送信データの格納先	\$BIZX_HOME/out
3	bpc.bizx.outtemp_dir	テンポラリディレクトリ	\$BIZX_HOME/BM/out-temp
4	bpc.bizx.sender.interval	この間隔でDBから送信データの有無を確認し、データを#2へ格納する。(ミリ秒)	初期値は、10000。
5	bpc.db.url	データベースへの接続URL	初期値は localhost:1521:BPCDB。 DBサーバのホスト名(またはIPアドレス)、Oracleリスナーのリッスンポート、OracleのSIDに合わせて変更する。
6	bpc.db.username	オラクルのログインユーザ	初期値は、BPC。
7	bpc.db.password	オラクルのログインパスワード	上記ユーザに対するパスワードを設定する。

(注1) \$BPC\_HOME はビジネスモジュールのホームディレクトリを表す。

(注2) \$BIZX\_HOME はクライアント型接続システムのホームディレクトリを表す。

### 3.1.2 C/S 型受信アプリの設定ファイル

ビジネスモジュールとクライアント型接続のシステムで連携する場合の受信に関する設定をする。

表 3.1.9 C/S 型受信アプリの設定ファイルの設定内容一覧

#	プロパティ名	説明	備考
1	bpc.bizx.log_config_file	Log4jの設定ファイルの格納先	\$BPC_HOME/config/log4j.xml
2	bpc.bizx.in_dir	受信データの格納先	\$BIZX_HOME/in
3	bpc.bizx.in_history_dir	受信データのバックアップを保存するディレクトリ	\$BIZX_HOME/BM/in-history
4	bpc.bizx.receiver.interval	この間隔で#2のディレクトリの受信データの有無を確認し、データをビジネスモジュールへ渡す。(ミリ秒)	初期値は、10000。
5	bpc.bizx.jndi.initial_context_factory	JNDIサービスプロバイダーのファクトリークラス名	値は、weblogic.jndi.WLInitialContextFactory。変更不可。
6	bpc.bizx.jndi.provider_url	JNDIのプロバイダURL	初期値は t3://localhost:7001 7001以外のポートを使用している場合は、7001の部分を変更する。
7	bpc.bizx.jndi.security_principal	WebLogicのJNDIへアクセスする際に使用するユーザ名	初期値は、system。
8	bpc.bizx.jndi.security_credentialse	WebLogicのJNDIへアクセスする際に使用するパスワード	上記ユーザに対するパスワードを設定する。
9	bpc.bizx.receiver.jndi_name	ビジネスモジュールがイベントを実行のEJB名	値は、EventExecuterBean。変更不可。
10	bpc.db.url	データベースへの接続URL	初期値は localhost:1521:BPCDB。 DBサーバのホスト名(またはIPアドレス)、Oracleリスナーのリッスンポート、OracleのSIDに合わせて変更する。
11	bpc.db.username	オラクルのログインユーザ	初期値は、BPC。
12	bpc.db.password	オラクルのログインパスワード	上記ユーザに対するパスワードを設定する。

(注 1) \$BPC\_HOME はビジネスモジュールのホームディレクトリを表す。

(注 2) \$BIZX\_HOME はクライアント型接続システムのホームディレクトリを表す。